

第 2 回防災・防犯部会（R 元. 9. 30）における主な意見

NO	委員名	主な意見	対応方針・対応
1	西口委員	災害時の通信手段としてLINEは有効であるが、スマートフォンを持っていてもLINEを使えない方がいる。防災訓練の時にでも講習をしてはどうか。	実施方法を含め検討する。
2	内野委員	区全体のハザードマップではなく、地域対応型のハザードマップにすることによりエリアの状況を拡大して見ることができるようになり有用ではないか。	ハザードマップは危機管理室で一括作成しているため、地域対応型のマップについて危機管理室に確認のうえ対応について検討する。また、国土交通省国土地理院がインターネットで公開している「重ねるハザードマップ」を紹介するとともに周知を図る。
3	宮本委員	特殊詐欺の防止策として、電話のディスプレイに相手の名前が出なければ、電話に出ないよう啓発をしていただきたい。	高齢者が集まる高齢者食事サービスや100歳体操の会場に出向き、電話に出ないことが一番の防止策であるなど講義をしている。今後は寸劇も取り入れた、分かりやすい啓発を行う。

NO	委員名	主な意見	対応方針・対応
4	内野委員	<p>スマートフォンなどに警告メッセージや不信メールが突然入り込んできて、その警告等に従い被害にあうケースもある。</p>	<p>犯罪の手口は変化するため、情報を入手して、犯罪手口に対応した効果的な啓発に努める。</p>
5	宮本委員	<p>防犯パトロールののぼりがなくなって、たすきだけになり目立たない。同じ歩くなら何をしているかわかるように、ベストなどの目立つものでアピールする方が良いのではないか。</p>	<p>防犯の日一斉行動や子ども見守り活動における装備品希望調査にベストを選択項目の一つにあげている。希望する地域は申出してほしい。</p>